

前図のA～Cは、4拍2小節の図形楽譜である。

○は手拍子、×は休みである。A・Bは別々のリズムであるが、両方を同時に手拍子をする、Cのように連続して聴こえることになる。これが、簡単な「インターロッキング」の原理である。

(4) 「パターンミュージック」とは

同じリズムや、同じ旋律をパターンとして何度も繰り返し、その形が音楽として表れるものを指す。これも、東南アジアの音楽の諸原理の一つと考えられている。

(5) 「トガトン」を使った音楽の教育的価値

- ① 竹を切るだけなので、自分たちで楽器を簡単に作ることができる。
- ② 作音楽器であり、どうしたらよい音がでるか自分たちで見つけることができる。
- ③ 「インターロッキング」や「パターンミュージック」の原理を応用し、演奏のルールを自分たちで考え「創作」(音楽づくり)をすることができる。
- ④ テンポを合わせる、音量のバランスを聴き合うなど、アンサンブルに必要な力を身につけることができる。

3 指導計画について

(1) 題材名 「フィリピンの民族楽器(トガトン)でパターンミュージックを作ろう」

(2) 題材設定の理由

日本は近隣のアジアの国々と文化の面で共通点も多く、また相互に影響を受けている。しかし、現実には、生徒はこれまでアジアの国々の音楽に触れる機会は少なく、その良さや面白さに興味・関心を示すことができなかつた。そこで、実際にフィリピンの民族楽器「トガトン」を使って演奏体験し、更に生徒が持っている豊かなりズム感を、「創作」(音楽づくり)によって引き出し、これを表現することによって生徒の音楽活動に対する興味・関心や学習意欲を高めようと考えた。また、フィリピンの人々の音楽と生活をこの「即興的表現」をとおして実感させたいと考え、この題材を設定した。

(3) 指導目標

- ① 知識理解、技能面の目標(達成目標)
 - ア 東南アジアの音楽の原理である「インターロッキング」や「パターンミュージック」を理解する。
 - イ 「トガトン」の演奏の仕方を身につける。
 - ウ アンサンブルの能力を高める。
 - エ 「即興的表現」を通して、音楽の表現力の伸長を図る。
- ② 態度、心情面の目標(方向目標)

「インターロッキング」や「パターンミュージック」を体験することによって、そのよさを発見し親しむ場としたい。また、グループアンサンブルを中心とした「即興的表現」の楽しさを味わいたい。さらに「アジアの民族音楽」に親しむきっかけをつかみ、積極的にアジアの文化について関心をもつ生徒を育てたい。

(4) 教材

- ① 自作教材プリント「フィリピンの民族楽器(トガトン)でパターンミュージックを作ろう」
- ② 自作リズムカード
- ③ 「トガトン」の鑑賞VTR、「ラップ」の鑑賞テープ
- ④ 自作「トガトン」50本
- ⑤ 演奏台用ブロック6個

(5) 指導計画(4時間扱い)

時	指導内容
第1時	東南アジアの音楽の特徴である「インターロッキング」をリズムゲームを通して理解する。基本的な「パターンミュージック」の「即興的表現」をする。
第2時	更に発展させた「パターンミュージック」の「即興的表現」をする。カリンガ族の実際の演奏等を鑑賞しその表現方法などを感得する。
	「トガトン」以外の楽器も使用して、グル